

## 臨床的に麻しんが疑われた症例からのウイルス検出

保健科学課 梶山 桂子・宮代 守

第 82 回日本感染症学会西日本地方会学術集会

日本は、平成 24 年の麻しん排除を目標として取り組んでいる。しかし、現在の届出基準である臨床診断・IgM 抗体検査では、麻しん以外の疾患であることが多く、これが麻しん患者数を増やしていると指摘されている。そのため、平成 23 年に麻しん届出症例 27 名の PCR 検査を行ったが、全て麻しんウイルス陰性であった。そこで、原因ウイルスを明らかにし、麻しん患者数の正確な把握に繋げるため、麻しんと類似の症状を起こすウイルスについて PCR 検査により病原体の検出を行った。

麻しん届出症例について PCR 検査を行った結果、風しんウイルス 18 名、パルボ B19 ウイルス 4 名、ヒトヘルペスウイルス 6 型および 7 型 6 名が陽性であり、実際には麻しんでない症例が多く紛れ込んでおり、麻しん患者数の正確な把握の妨げになっていることが分かった。ただし、PCR 陽性のみで原因ウイルスを特定したことにはならず、陽性検体の種類、抗体検査、疫学情報等をふまえて総合的に判断することが重要である。